

1 千葉地域の農業の概要



千葉地域:千葉市、習志野市、市原市、八千代市

農家戸数: 5,080 戸

耕地面積: 9,666 ヘクタール

うち水田: 4,680 ヘクタール

畑 : 4,982 ヘクタール

出典:2020年農林業センサス(令和3年12月24日更新)
作物統計調査(令和6年2月29日公表)

千葉地域の令和4年農業産出額

農業産出額(4市合計)

約212億円

うち 野菜 約76億円(36%)

うち 米 約31億円(15%)

うち 乳用牛 約28億円(13%)

うち 鶏 約25億円(12%)

資料:令和4年市町村別農業産出額

(農林水産省 令和6年3月14日公表)

千葉地域の農林業は、都市化の進んだ習志野市・八千代市南部・千葉市西部及び中央部・市原市北部の都市農業地域と、千葉市東部・八千代市北部及び市原市中央部の平地農業地域、緑豊かな市原市南部の中間農業地域に分類されます。

農家戸数は5,080戸で全世帯数の約1パーセント、耕地面積は9,666ヘクタールで面積全体の約14パーセントとなっております。

都市農業地域では「春夏にんじん」や葉菜類等の野菜や「日本なし」等の果樹を中心とした集約的経営、平地農業地域では水稻と「秋冬にんじん」、「だいこん」等の露地野菜や花き、畜産等の複合経営、中間農業地域では畜産の大規模経営や、「しいたけ」等の特用林産物を取り入れた複合経営が営まれるなど、多様な農業が展開されています。

また、各地に整備された直売施設や観光農園等が、都市と農村との交流拠点となっています。

(1) 農業・担い手育成

水稻・落花生



千葉地域の水田農業は主に平地農業地域及び中間農業地域で営まれており、令和5年の水稻作付面積は約3,299haで、県全体の5.6%となっています。

近年は大規模経営体への農地集積が急速に進んでおり、直は等の省力化技術の導入や、高収益作物を推進し水田経営の安定化を目指しています。

また、担い手が不足する地域では集落営農により地域農業を維持する体制づくりを進めています。

落花生は、秋冬にんじんの輪作作物等として栽培されており、千葉地域の特産となっています。

野菜

都市農業地域(千葉市幕張地区、習志野市)では、春夏にんじん・葉菜類等が生産されています。平地農業地域(千葉市東部・市原市中央部・西部・八千代市北部)では、春・秋冬だいこん、春夏・秋冬にんじんの根菜類や、ほうれんそう、キャベツ等の葉菜類が生産されています。また直売や摘み取りを中心としたいちご生産が増加しています。



市場出荷のほか、消費地に近い立地条件を生かして、庭先、直売所、インショップなど多様な販売形態が展開されています。

畜産



令和5年度おいしい牛乳ありがとう
絵手紙コンクール作品

畜産経営体は、習志野市を除く千葉市、市原市、八千代市にあり、住宅地に隣接するものから、農業地域、丘陵地域に至るまで点在しています。

酪農は成牛30頭～60頭規模の家族経営が多く、5割以上が50歳未満の経営者又は後継者のいる経営体です。千葉市、市原市、八千代市それぞれに酪農後継者組織があり、技術向上を図っています。

肉牛は、市原市を中心に中小規模の経営体が点在しています。

養豚は、市原市南部の養豚団地を中心に、千葉市、八千代市にも、母豚50～100頭前後の中小規模の経営体が点在しています。

養鶏は戸数は少ないものの、小規模から大規模の経営体が千葉市、市原市に点在しています。

果 樹

千葉地域では、消費地に近い利点を生かして、日本なしやブルーベリー、かき、ぶどう、キウイフルーツ等の果樹が生産されています。市原市及び八千代市は、日本なし等を対象とした「果樹産地構造改革計画」を策定し、産地が一体となって生産基盤を強化しています。



また、市原市のいちじくは、昭和初期から生産されており「姉崎いちじく」として皇室へ献上されています。

花 き



千葉地域では、花壇苗(パンジー、ペチュニア、プリムラ類)を始め、鉢物(シクラメン、観葉植物、洋ラン)、切花(小ギク、トルコギキョウ、ストック、洋ラン)、植木等が生産されています。

販売方法は市場出荷が中心であり、ほかにホームセンター等の量販店との直接取引や近隣の直売所での販売が行われています。

青年農業者

次世代を担う中核的な農業者を確保するために、農業を志し、かつ学習意欲のある青年農業者を対象とした「農業経営体育成セミナー」及び「青年農業者等スキルアップ研修」等の研修を開催しています。

これらの研修を開催することにより、就農を定着させるとともに、経営者としての資質及び能力の向上を図ります。



女性農業者



主体的な経営参画や社会参画ができる女性農業者を育成するために、関係機関や女性農業者組織・団体等との連携を強化し、女性農業者が活躍できる環境づくりを進めています。

また、農業に関する知識や技術を向上させるために講習会、研修会及びセミナー等の集合研修を開催し、次代を担う若手女性農業者の経営参画を促進しています。

(2) 農業農村整備

当地域の先人たちは、河川の豊かな水の恵みを利用した「水車」、「板羽目堰」等の歴史的・文化的に価値のある利水技術を考案し、耕地整理とともに地域の農業を発展させてきました。



写真：市原市海上地区の麦作と西広堰

これらの水利施設は農業農村整備事業の実施により、頭首工や揚水ポンプといった近代

的な施設に更新することで、より安定した用水確保や送水ができるようになりました。

しかし、近年は施設の老朽化や光熱費の高騰に伴い維持管理費が増大していることから、「基幹水利施設ストックマネジメント事業」等の施設更新・長寿命化対策事業を計画的に行っています。

農地についても「経営体育成基盤整備事業」等を契機として、水田の大区画化、担い手への土地利用集積を促進することで大規模経営が可能となりました。

農業農村整備事業により客土や暗渠排水も行い、水田の汎用化に伴い麦や大豆の生産を容易にしたほか、高収益作物への転換、飼料用米等の生産にも取り組んでいます。

なお、基盤整備後の農地等の周辺環境は、土地改良区や自治会が中心となり、非農家の構成員を含めた多面的機能支払交付金の活動組織を立ち上げ、地域ぐるみで維持・保全を行っています。

<令和5年度末時点での 30a 以上を標準とするほ場整備率:57%>

(3) 農林業災害への危機管理の強化

近年、多発する台風や大雪などの自然災害や、高病原性鳥インフルエンザなどの急性悪性家畜伝染病への対策として、各市や関係機関等との協力・連携を進めるとともに、収入保険や農業共済といった農業保険への加入を促進しています。また、ため池の決壊による水害等の災害を未然に防ぐための工事等を計画的に推進しています。